

フライイングダッチマン
Frying Dutchman

ライブ

ホピの予言
追悼上映

未来へ続く道～宮田雪(ホピの予言 監督)一周忌によせて～

北米先住民『ホピ族』に伝わる予言から現代人に対する警告を描いたドキュメンタリー映画。26年前に制作されたウラン採掘の実状と、差別と抑圧で形成された核サイクルの正体を暴露した作品が、311を経験した我々に再び語りかけるものとは何か。

上映後、今ソーシャルメディアを中心に各界から注目されるフライングダッチマンがHumanErrorなどを演奏。YouTubeへのアクセスは35万を超える。同映画の監督、故宮田雪氏の一周年を偲ぶとともに映画に関するエピソードやその背景などを製作元の辰巳玲子氏のトークも行います。

映画を通して核燃料サイクルの出発点を見つめ直し、何のために推められた原子力政策だったのか、誰のために物質に依存し続ける社会にさせられたのかを一緒に考えていきませんか？私たちが次の世代へと繋いでいくために必要な事とは何かを。

2012.02.12 亀岡市役所
市民ホール

◆参加費(定員150名)

1,000円(事前予約)・1,300円(当日)・1,000円(高校生以下)

◆プログラム

12:30 開場・13:00 開始・16:30 終了

◆問い合わせ先 0771-84-0959

主催：口丹 自然の暮らし協議会 映画上映部会

後援：亀岡市 亀岡市教育委員会

NPO法人子どもサポートプロジェクト

『ホピの予言』追悼上映 × Frying Dutchmanライブ × 辰巳玲子トーク

上映作品紹介

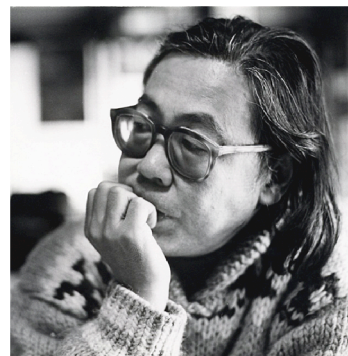
◇『ホピの予言』1986年 75分 ランド・アンド・ライフ制作 監督・宮田雪



「人間が正しく使えるようになるまでは、決して掘り出してはならない」アメリカ先住民ホピ族の警告にも関わらず、彼らの聖域からウランは掘り出され、広島・長崎に原爆は投下された。それは、ホピの教えの中で、人類存亡にかかわる危険な時代に入ったサインであった…。母なる地球やいのちたちと引き換えに、利権やエネルギー、快適さを追い求めてきた私たち。その私たちに残された唯一の道は「質素で精神的な生き方」とホピ長老は語る。この映画は普遍的メッセージ映像として、1986年公開から絶えることなく求め続けられてきた。311以後、映像の一言一句がさらに現実味をもって迫ってくるのだ。

◇『浄化の時代を迎えて』2004年 25分 ランド・アンド・ライフ制作 構成・辰巳玲子

2003年3月イラク戦争開戦直後、ホピ伝統派のひとりであるマーチン・ゲスリスウマ氏を取材したインタビュー映像。「私たちは自分を見つめなければならない。」と最後を結ぶ彼の言葉は、311以後の今をさらに鮮明にしている。



故・宮田雪(みやた きよし)

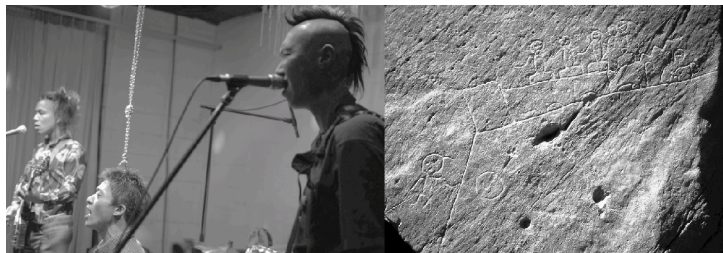
プロフィール

◇FRYING DUTCHMAN(フライングダッチマン)

結成9年目を迎えたFRYING DUTCHMAN、京都を中心にイスラエル、フランス、ドイツ、オランダを回り、世界的視野で活動を展開。うわさのニューシングルHumanErrorで奮闘中。

◇辰巳玲子(1957年神戸生まれ)

88年映画『ホピの予言』と監督・宮田雪と出会い渡米。日本山妙法寺による平和行進で東海岸を歩いた後、デニス・バンクス氏が提唱した「Run for Land and Life」のランに参加。宮田と共に、ランド・アンド・ライフの活動に関わる。911とイラク開戦を機に、『ホピの予言2004年版』を制作し活動を再開。2011年2月14日宮田を見送り311以後の活動を展開させるべく歩み始めている。



<http://kuchitan.info>

事前予約方法

ホームページよりお申し込みください
定員に達し次第、受付を締め切ります